

(第3種郵便物認可)

3月11日の地震直後から岩手県遠野に拠点を立ち上げ、上閉伊郡大槌町で災害支援にあたった。北上山地東麓から太平洋岸に至る面積200平方キロの大槌町には、約5千人が暮らす5カ所の避難所があった。私たちが支援活動を行った旧寺野弓道場はその一つで、約400人が避難生活を送っていた。現場や支援の様子を友人や知人にメールで送っていた。そんな中に、古くからの知人がいた。今年84歳になるハイチ在住の須藤昭子だ。ハイチで30年以上にわたり、結核対策に携ってきた女性医師だ。

今朝7時(ハイチ時間)ラジオのニュースで東北地方にまた大きな余震があったことを知りました。亡くなった方もあるようで大変心配しています。私は今、本格的な

同じ地球の中で



やまもと たろう
山本 太郎



サナトリウムの再建に向けて、日本大使館、イタリアのNGOとの協力をすすめています。今回の地震で日本の国際援助にも当然、影響は免れないと思っています。ハイチの人たちから日本の状態を心配して会う人ごとに聞かれます。シスター武島も東北地方に出かけているようです。お互いに見えることをしてまいりましょう。須藤

「須藤先生、先週から長崎に帰

月15日には、ハイチ関係で打ち合わせを行う予定です。無償資金協力でジャクメールの病院建設を行う話に関しても問い合わせが入っています。近いうちにハイチへも行きたいのですが、お体のほうは大丈夫ですか。少し心配しています。私のほうでできることがあれば、お知らせください。山本

須藤は、病気を抱えながらもハイチにいる。「山本先生、たくさん現地からの情報ありがとうございます。先生のご活動に私も勇気をいただきました。お互いに頑張ってくださいませ。お互い地球の中で。須藤」

同じ地球の中で。
(長崎大熱帯医学研究所教授)